



鬼 たい じ

DOJIN
R18
成人向け
18歳未満の
購入・閲覧禁止

PRESENTED BY Tetragon

テトラゴン

鬼
たいじ



かつて
この国には
妖や化生の類が
多く存在していたと
言われている



中でも鬼に
関する伝承は数多く
残されており
その多くは鬼が人間を
襲うといったものである



その為、鬼は
恐怖の象徴であり
畏怖・差別の
対象として扱われた

しかし地域によっては
心の優しい鬼や
人間に福をもたらす
有難い存在として
崇められたという
逸話も存在している

これは
ある鬼の家族と
一人の少年に
まつわる物語…

わあ……!!

すごーい!

お花がこーんなに
いっぱい!!

こんなところが
あるなんて全然
知らなかったよ

えへへ

前に紅葉ちゃんとお姉ちゃんのお誕生日にお花をあげたいねって話してたでしょ

それでね
信太君に相談したら
ここを覚えてくれたの



ありがとね
信太

本当信太君の
お陰です！
ありがとうございます



まあ確かに
この辺りは人里に
近いからね

でもこんなに
綺麗な花が
沢山あるんだから
来た甲斐があったよ！



ん……
んだとも……

僕みたいな
人間が鬼の
お姫様を
呼び捨てなんて

何言ってるのよ
水臭い

私達
お友達じゃ
ないですか



い……いえ
そんな……
滅相もねえです

あおば
蒼葉さま
もじ
紅葉さま

もう！
まーた様付けで
呼んでる！

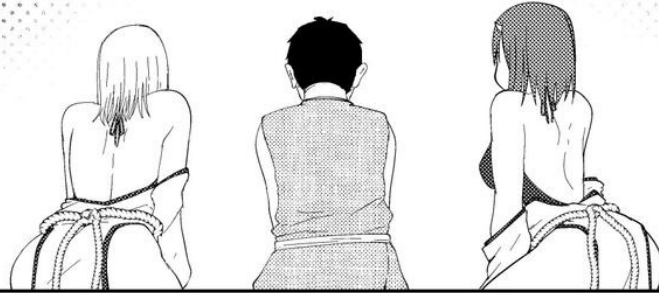
そのまま名前で
呼んでくれたら
いいのに

ほらっ！
あんたも
こっち来て！
良い匂いが
するわよ

信太君
早く早く！

はっはい！

貧しい村に生まれ
両親を病で亡くした
僕は口減らしとして
この山に棄てられた



三日三晩山中を彷徨い
ついに力尽きて
倒れた所を
彼女達が偶然
通りかかり
介抱してくれたのだ

紅葉ちゃんは天真爛漫で
思い立ったら
即行動するのでたまに
ヒヤヒヤしてしまう



蒼葉ちゃんはおしとやかで
清楚な雰囲気を持
っているが
意外といたずら好きだ



鬼の一族は遙か昔から
この山で暮らしていたが
十五年前のある日
金銀財宝を奪おうと
人間達が里を襲撃
彼女達の両親も殺され
一族は壊滅状態に

奇跡的に生き残った
彼女達は人間に
見つからぬよう
深い山奥でひっそりと
生きてきたのだと言う





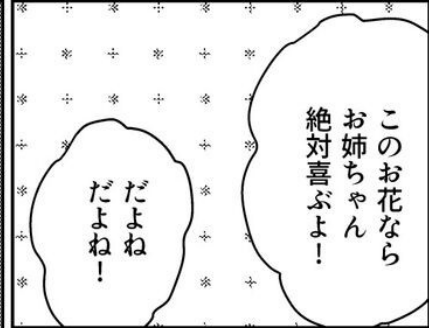
あ！
お姉ちゃん!!

紅葉
蒼葉
信太くん

蒼ちゃん!! 信太!!
お姉ちゃんにバレない
ようにしないと...!!

3人とも
探したわよ

う...うん!!



このお花なら
お姉ちゃん
絶対喜ぶよ!

だよね
だよね!



あらあら

こんなところに
可愛らしい
鬼さんが二人も



サッ



ふふふ
わかったわ

夕ご飯の支度が
出来たから
もう帰りましょうか

はい♪



こっち
来ちゃダメー!!

あらあら
どうして?

とにかく
秘密なの!

信太君も
お腹空いた
でしょう

彼女は紫苑さん
紅葉ちゃんと
蒼葉ちゃんのお姉さんだ

帰ってご飯に
しましょう

は……
はい……!

人間の僕にも
暖かな愛情を
与えてくれており
僕にはそれが
何より嬉しかった

姉上姉上!
今夜の
ご飯は何?

両親を亡くした
彼女達に取って
親代わりの
存在でもある

うふふ
今夜はねえ……





いいか？
音立てんなよ

鬼どもは
五感が鋭い
らしいから
慎重にな

わ・わかつてるよ



見ろよあれ

信太のやろお
とつくにのたれ
死んでると
思ったが本当に
生きてやがる

一緒にいるのが
鬼だよな？
俺初めて見た

3匹共
すげえ上玉じゃ
ねえかよ

あの顔に
あの身体
タマンねえ...

おお...



ね？言ったでしょ
愚図の信太が山で
女の鬼と一緒に
いるところを見たって

もう鬼は
絶滅したかと
思ってたが
こりゃあいいや

当然よ
オヤシ
村長に報告だ
あと他の男衆にも
声かけとけ

ヘッヘッヘッ
楽しみだなあ

それじゃあ
...やるか

ああ
お手柄だぜ
こりゃあ



私達また一段と
おっぱい大きく
なってますね

ふふふ
この調子で
目指せ
紫苑お姉ちゃん
だね!



ねえ信太ー
信太も
一緒に洗いつこ
しようよー

ぼっ：僕は
一番最後で
いいですから

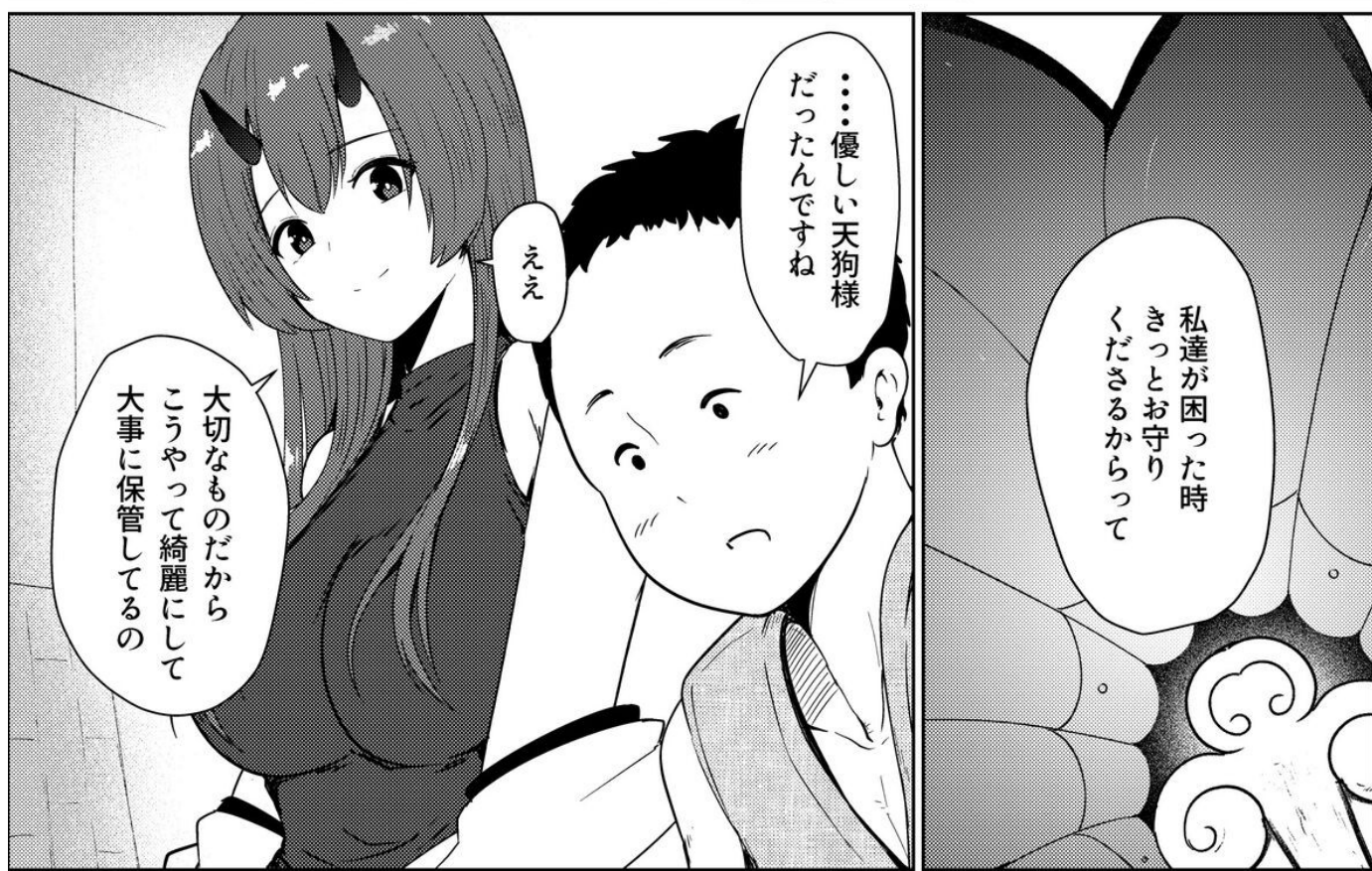


キヤハッ
くすぐったいよお
蒼ちゃん

ダメだよ
紅葉ちゃん
ちゃんと拭いて
綺麗にしないと

女の子
なんだからっ

でも
くすぐったい
んだもん





私達のこと
恐がらずに
接してくれて

お礼を言うのは
僕の方です

そっ
そんな！



……
ありがとね
信太君

え？



人間の僕を
助けてくれた上に
一緒に住まわせて
もらって……

本当にいくら
感謝をしても
しきれません

それに……

それに？



って……
すみません
人間の僕が
こんな事……

僕が勝手に
思ってる
だけなので……



村では居場所がなくて
ずっと一人ぼっち
だったけど

皆さんと出会って
……何だか新しい
家族が出来た
みたい……







村の……

つっても今家に
逃げ込まれたら
面倒だ

だからよお



なんで?……に……

ひとまず
お前にはおねんね
してもらうぜえ



よお 信太

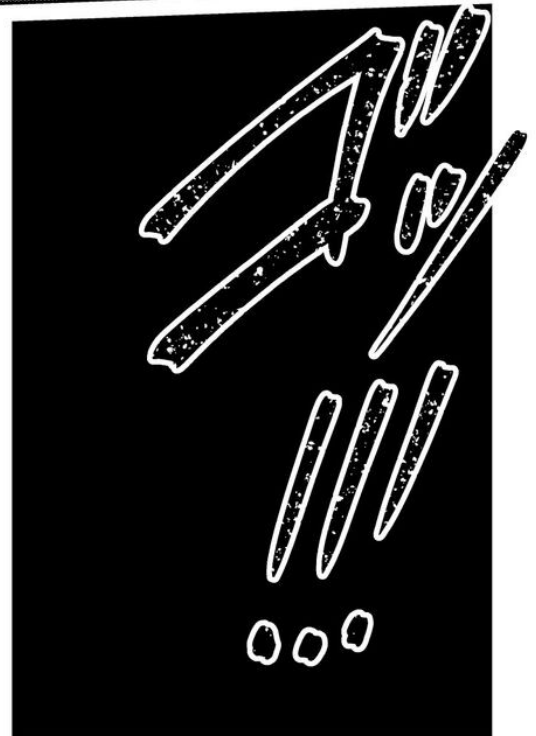
遊びに
来たぜえ♪



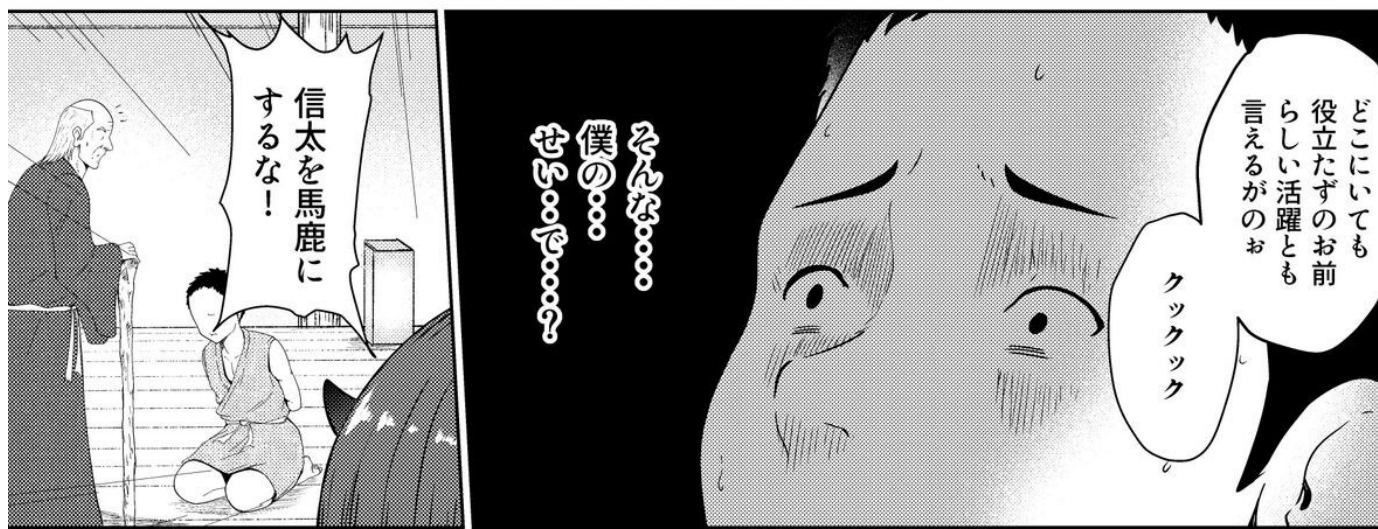
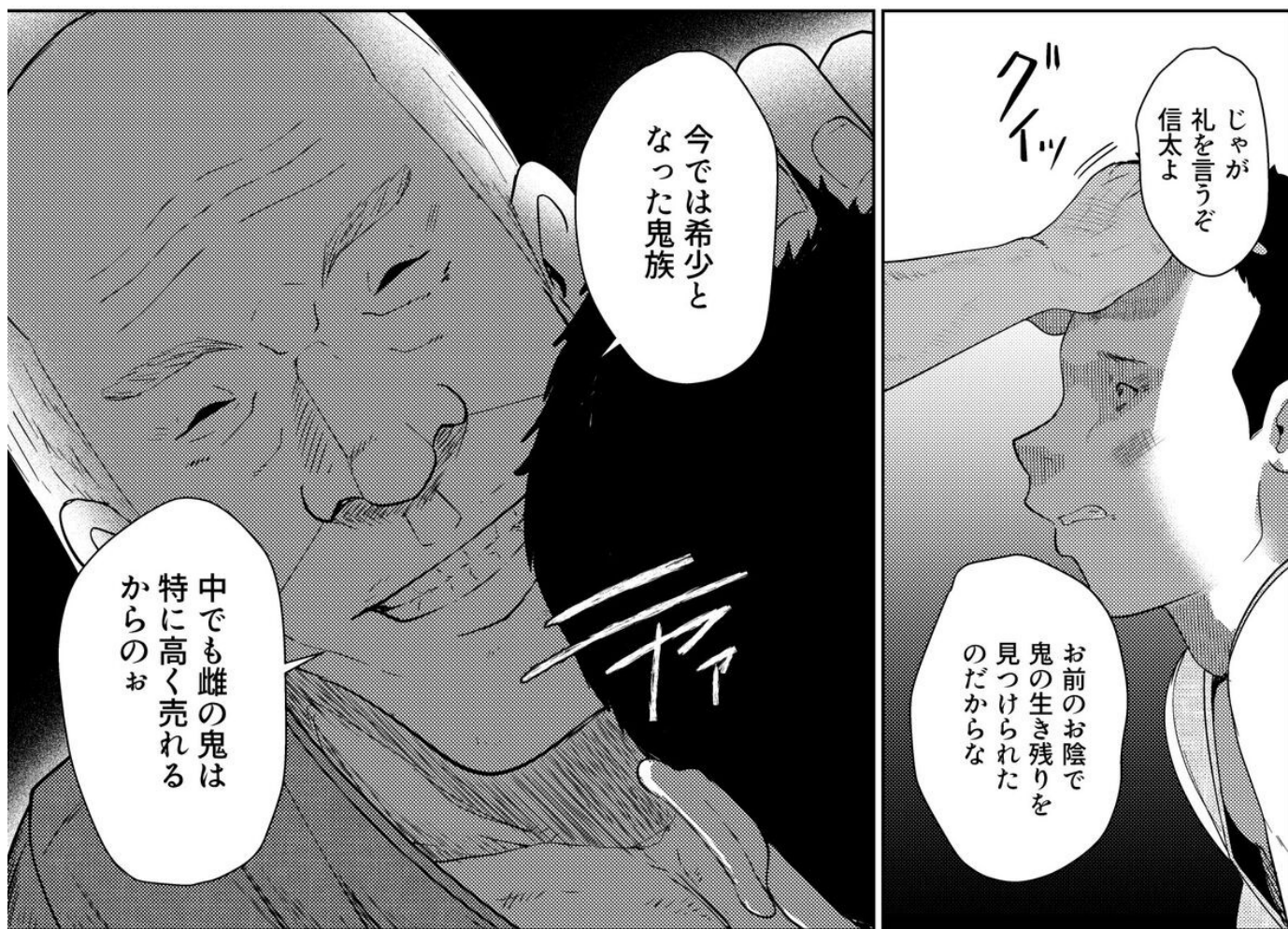
ん……

……太!!

信……ん!!









馬鹿にする
奴は許さない
んだから!

信太君...いえ
信ちゃんは
私達の大切な
家族です!

蒼葉
紅葉
やめなさい



紅葉ちゃん...
蒼葉ちゃん...

おーおー
威勢がいいのお

それだけ大口が
叩ければ大した
もんじゃ

だがまあ

この煙が
消えぬ限り
無駄な事



鰯を焼く匂いと
煙は貴様ら鬼に
とって毒そのもの

それらはすでに
この部屋の隅々まで
覆っておる

身体の自由は奪われ
今では碌に力も
入らんじやろう



今ここで
僕に抱かれる

妹達や新太に
見られながら
身体を捧げるのだ

媚び諂い奉仕して
僕を満足
させられたなら

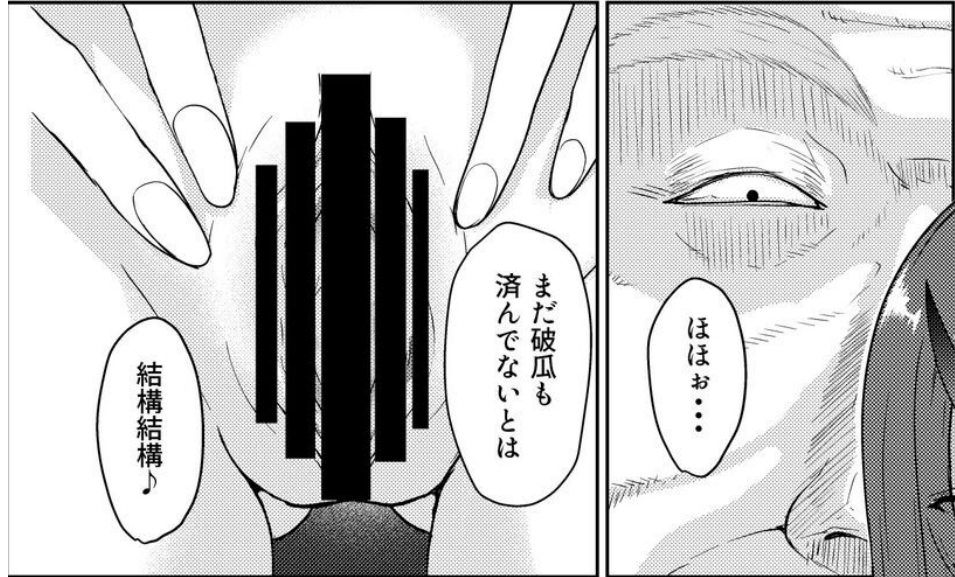
他の3人は
解放してやる

下手に抵抗したら
紅葉や蒼葉
信太君の命も
危険に晒してしまう

煙のせいで
身体に力が
入らない

せめて…
3人だけでも

おお！



なんと美しく
卑しい身体じや





こ…これで
宜しい
でしょうか

くひひ
そうじゃ
うまいぞお

そのまま胸で
挟みながら
口に咥えてみる

…はい…



歯を
立てるなよ

舌で
ねぶり回す
ように

ああっ…
いいぞお!!

初めてにしては
なかなか
うまいではないか

これからお前の
中に入るんじや
精々綺麗にして
おくのだな

酷い匂い……
それにドクドクと
脈打って……

でも……
皆を守る為には

おっほ♡



くくく...

強く美しい鬼が
人間のち○ぽを
啜える様は格別よなあ

何度見ても
いいものじゃ



よし
もういい

ハッ

ここから先は

その膣中で
楽しむとしよう



折角の初夜だ

ぐい

お前もたっぷり
楽しむといい♡



いいぞお
お前は最高だ

僕のちんこが
過去にない程
硬直しておるわ



信太！それに
そのメス餓鬼共も
よく見ておれ

貴様らの姉が
無力に犯される
様をなあ！！



紅葉…蒼葉…
信太君…



大丈夫
だからね…

みんなは…
わたしが

わたしが

んッ!!

守るから!!

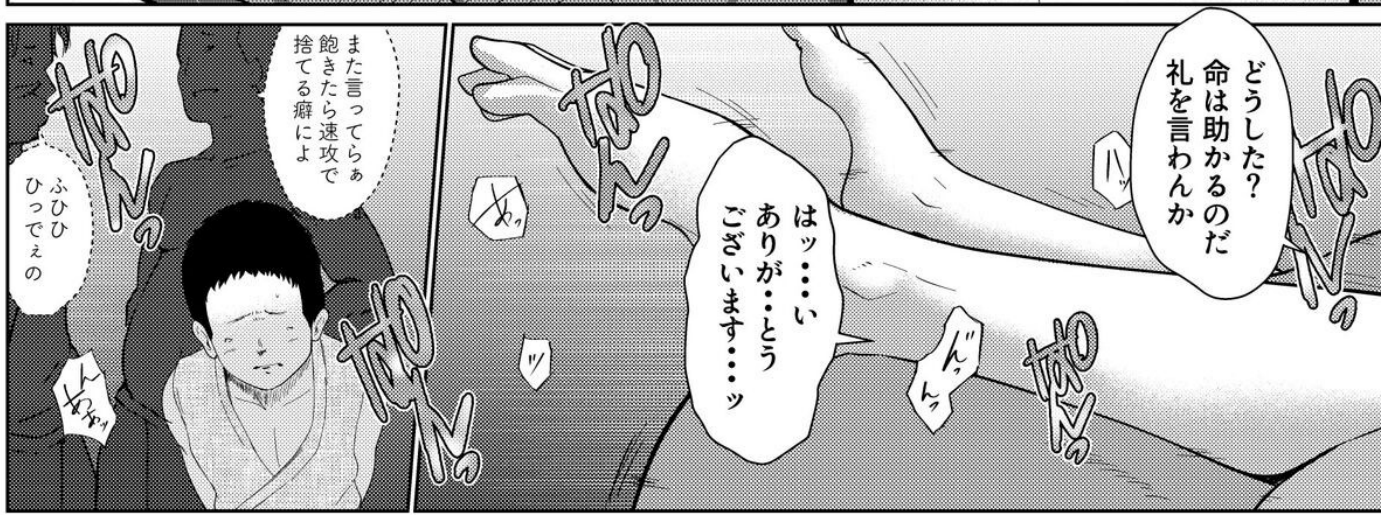
おほ♡

これは
堪らん!

やはり鬼の
膣中は格別じや

あ...
ぐっ!!

蛇のように
締め付けて
きおるわ



僕のせいだ...

僕の...せいで

僕がいたせいで
この場所が
バレて...こんな...

あなたも
私達の
大事な家族
なんだから

あなたが居たいなら
ずっとここに
居ていいのよ

ごめんなさい

ごめんなさい

ほれほれ
もっとおねだり
してみせる!!

おち○ぼ...
気持ちっ...
いいっ...です...

んん？
声が小さいのお

僕を満足させぬと
妹達も同じ目に
遭うぞお

はッ

それっは...
だっ...めえ...

もっと大きな声で
どうして欲しいか
言ってみろ

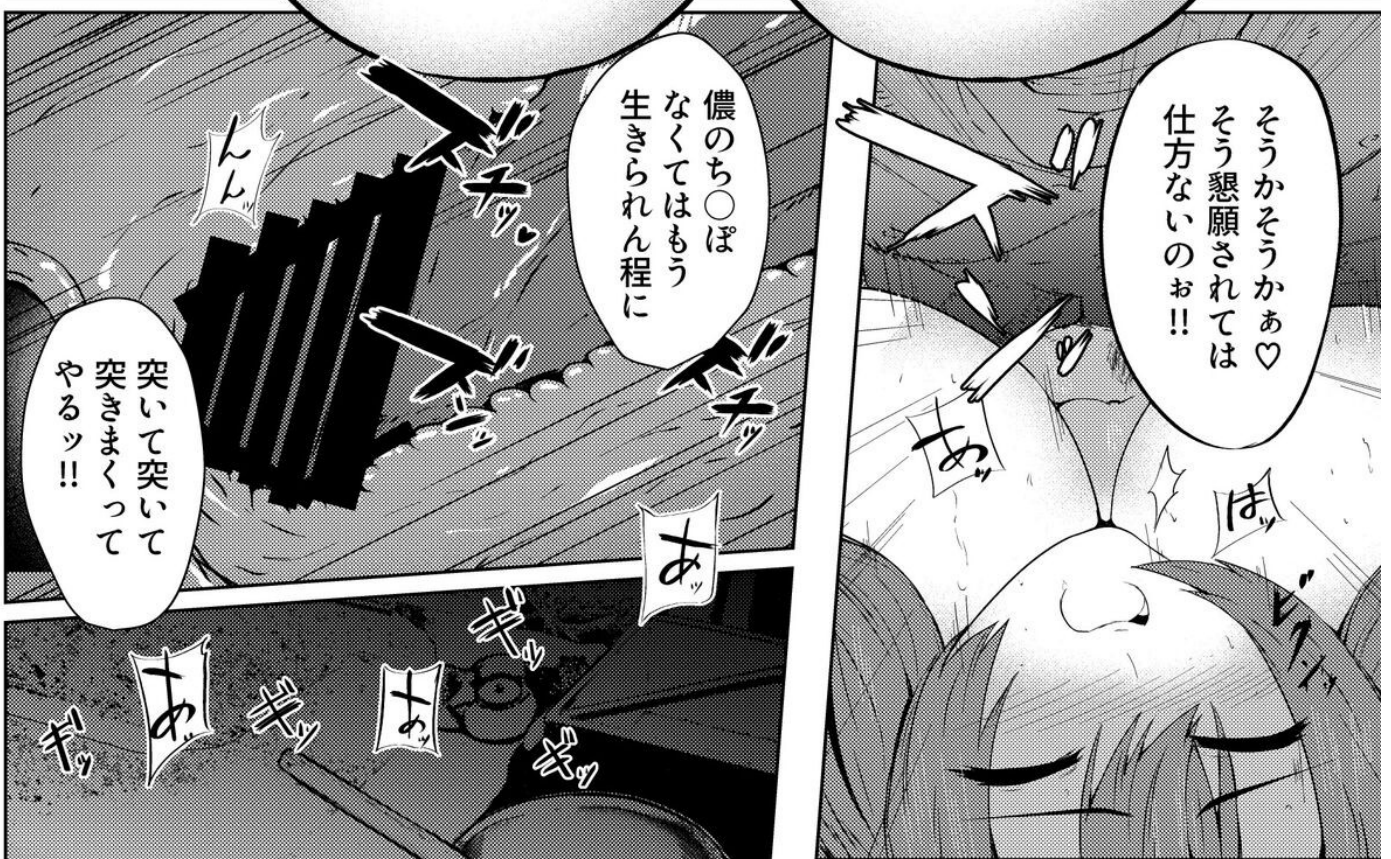
んッ
んんッ!!

はッ...
はい...



おち○ぽ：
気持ちいいです

村長様の
おち○ぽもっ
とください……



そうかそうかあ♡
そう懇願されては
仕方がないのお!!

儂のち○ぽ
なくてはもう
生きられん程に

突いて突いて
突きまくって
やるッ!!



クククッ
卑しい鬼め

犯されながら
きゅうきゅうと
締め上げおって



望み通りッ！
注いでやるわッ！！

子宮
いっぱい

儂の子種を
たっぷりとなあ!!!

ああ!!









やめてください！
お願いします

僕の大きいでしょ？
ゆっくり挿れて
あげるね



やめろっ！
挿れるな！！

希少な鬼女…
しかもそんな中でも
超極上の初物だあ

こんなの
味わえる機会は
もうねえぞお



人間様の
ち○ぽを満足
させられる様に

しっかり
ご奉仕しろよお

おほお♡
あったけえー

にゆるにゆるで
気持ちいいー♪



あーやっべ
腰止まんねえ

ずっとお預け
くらってムカムカ
してたからな



お前らで
たっぷり解消
させてもらうぜえ♡

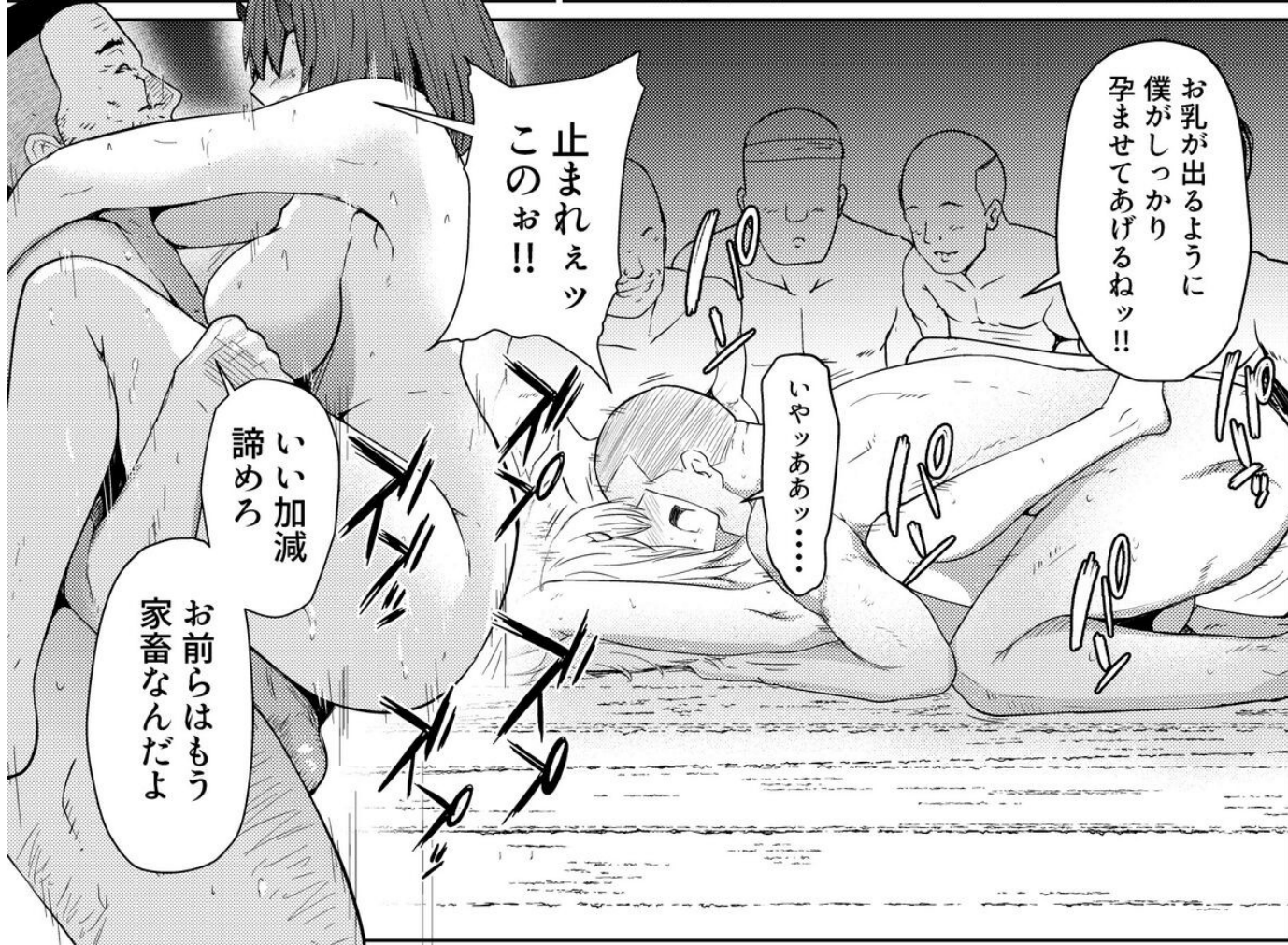
一晩でマ●コ
ガバガバになるまで
犯してやるよ!!

13P♡

13P♡

13P♡

13P♡





ズッ…もッッ
射精くよっ…!!!

いやっあッ
あああッ
あああッ!!

やめッ
ぐっ…んんッ!!!

孕めッ
雌餓鬼が!!!

いやあ…ッ

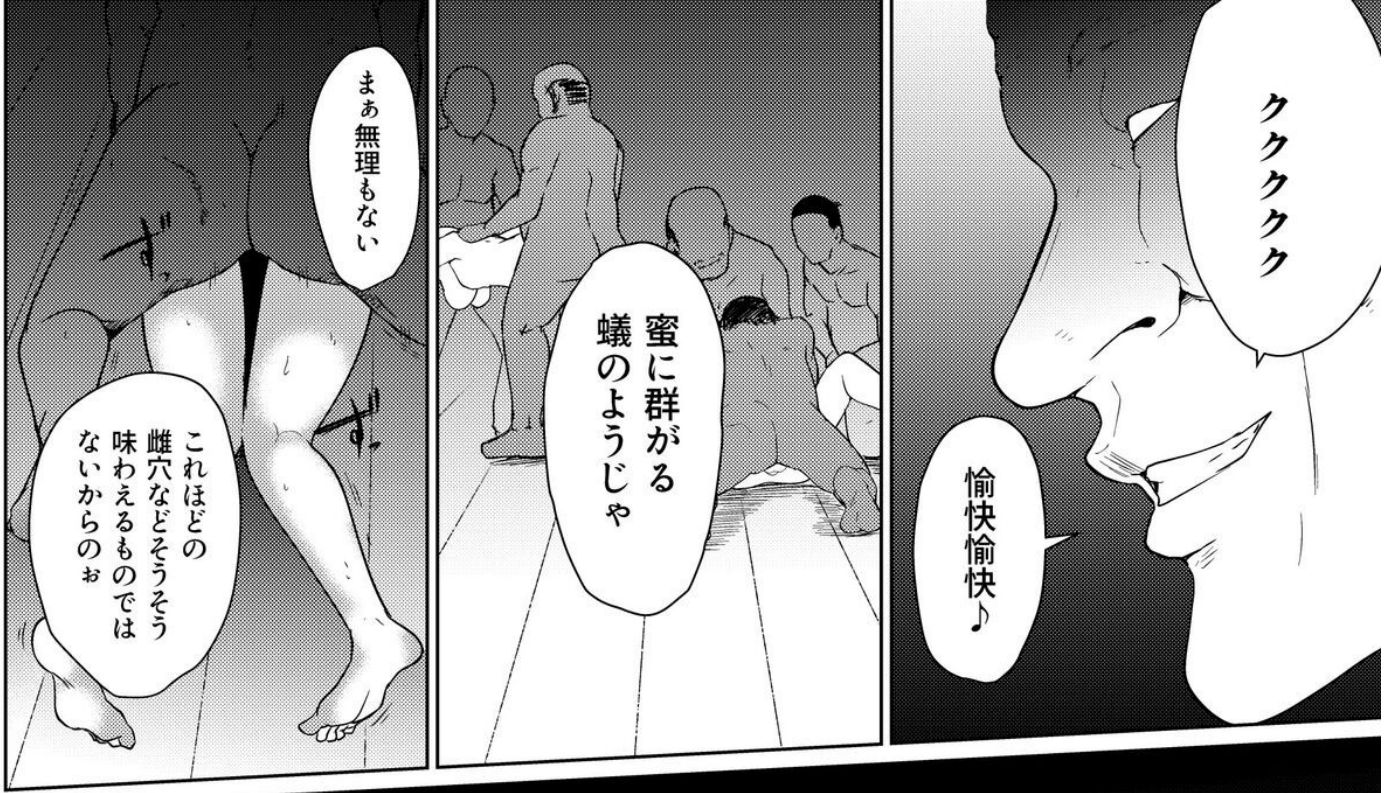
キュル♡

赤ちゃん…
できちゃう

クソッ…

ヒルル♡

こんなっ人間
なんかにい…





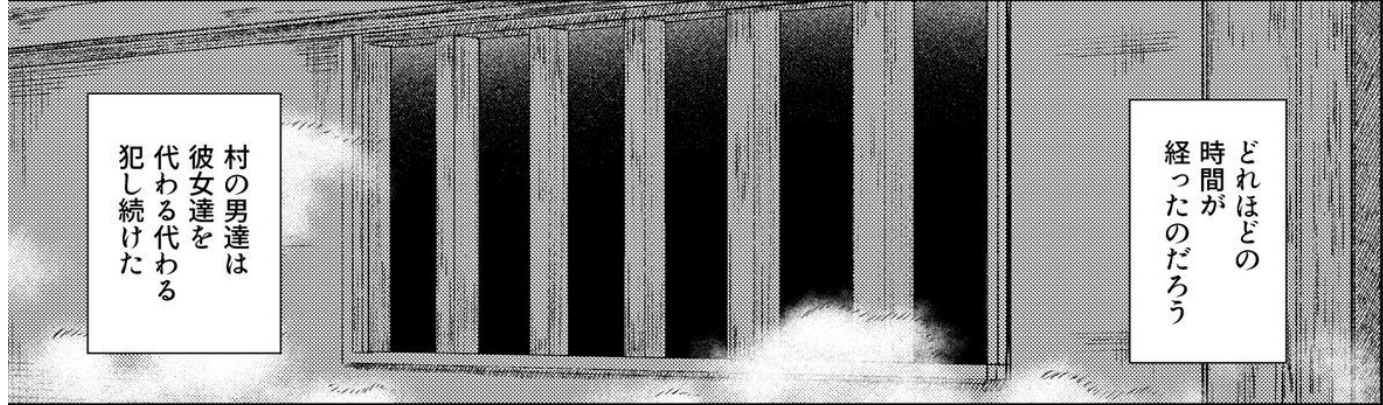
クククク

子宮も一杯に
なった事だし
一旦ここまでかのお

アッパッパ



折角じゃ
妹達の具合も
味わってくると
しよう



どれほどの
時間が
経ったのだろう

村の男達は
彼女達を
代わる代わる
犯し続けた



何度も

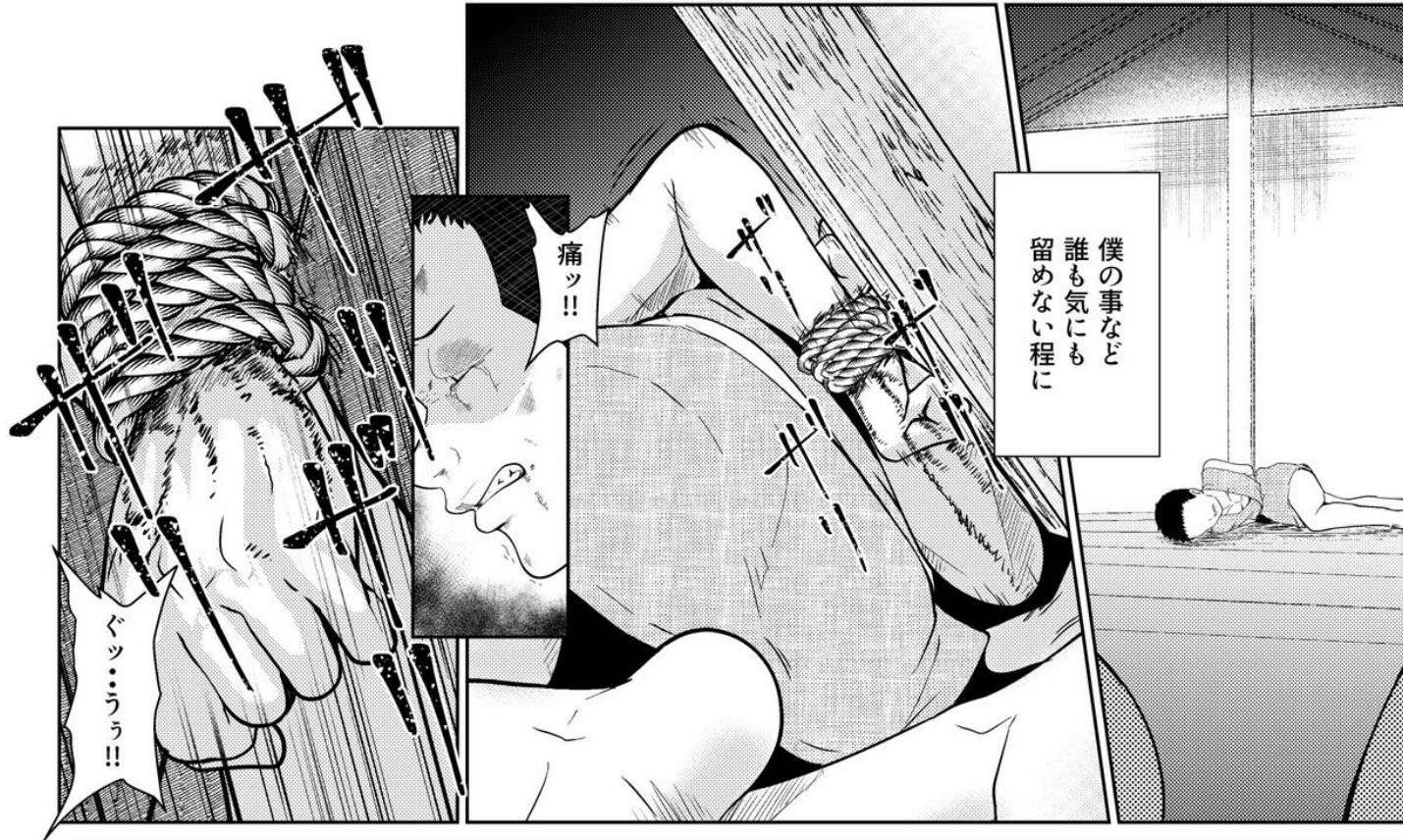


何度も



皆が彼女達に
夢中となり
休む事なく
貪りついていた

何度も





村にいた頃
僕には居場所が
なかった



こんなところで
何してんだ？

信太あ



一緒に遊んで
一緒にご飯を食べて
一緒に笑ってくれた



でもそんな僕を
紫苑さんや紅葉ちゃん
蒼葉ちゃんは家族と
呼んでくれた



役立たずと罵倒され
口減らしで山に棄てられ
誰にも必要とされて
いない自分が堪らなく
虚しかった



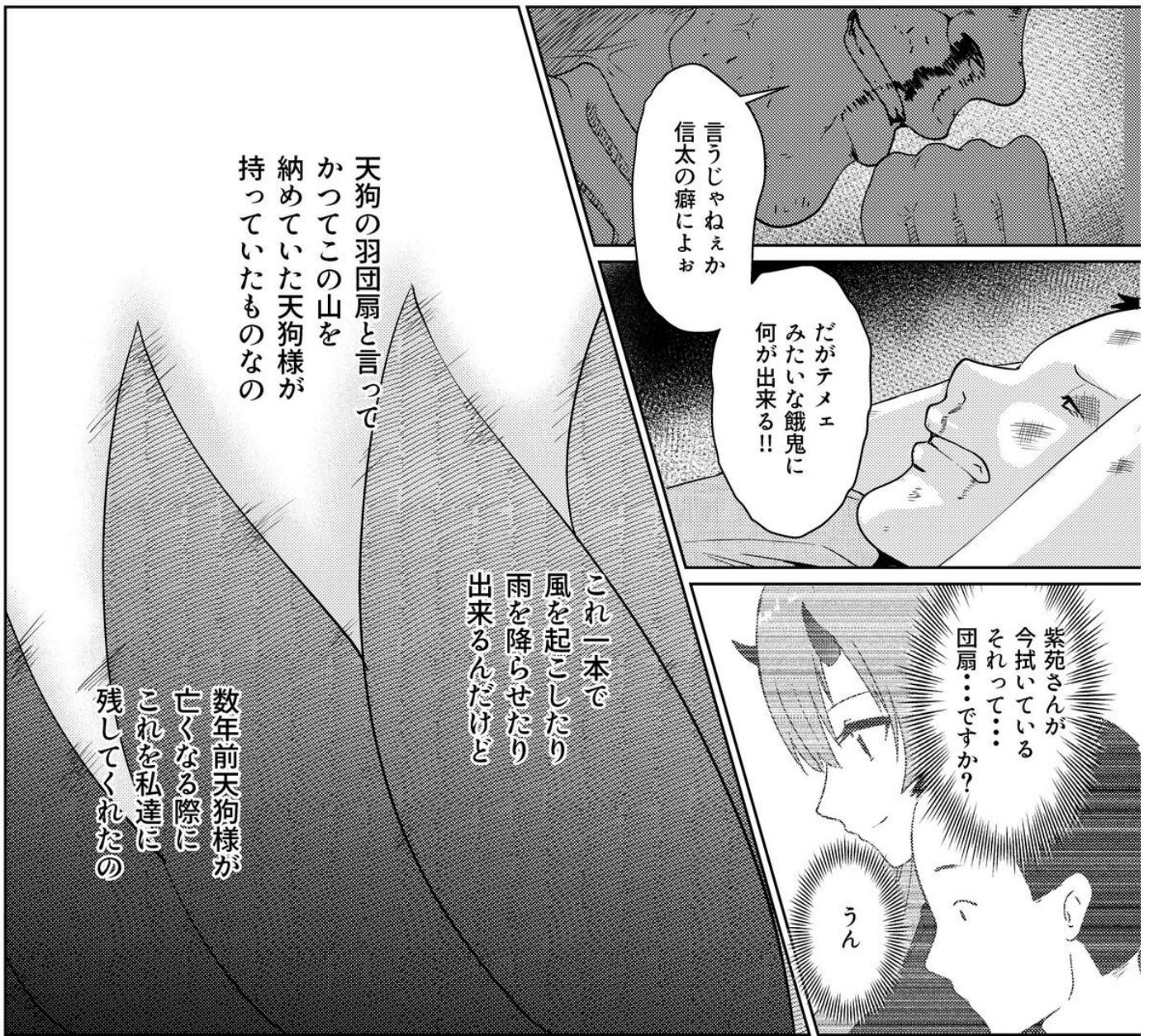




僕の大切な

家族だ!!!

お前らなんか
渡すもんか!!



言うじゃねえか
信太の癖によお

だがテメエ
みたいな餓鬼に
何が出来る!!

天狗の羽団扇と言っで
かつてこの山を
納めていた天狗様が
持っていたものなの

これ一本で
風を起こしたり
雨を降らせたり
出来るんだけど

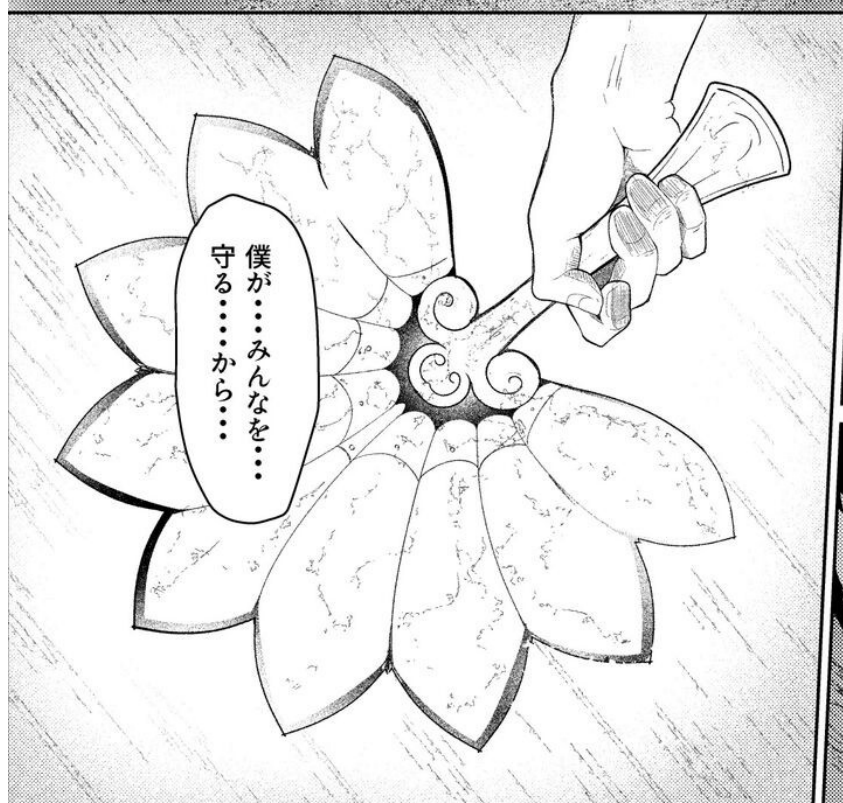
数年前天狗様が
亡くなる際に
これを私達に
残してくれたの

紫苑さんが
今拭いている
それって...
団扇...ですか?

うん



私達が困った時
きつとお守り
くださるからって

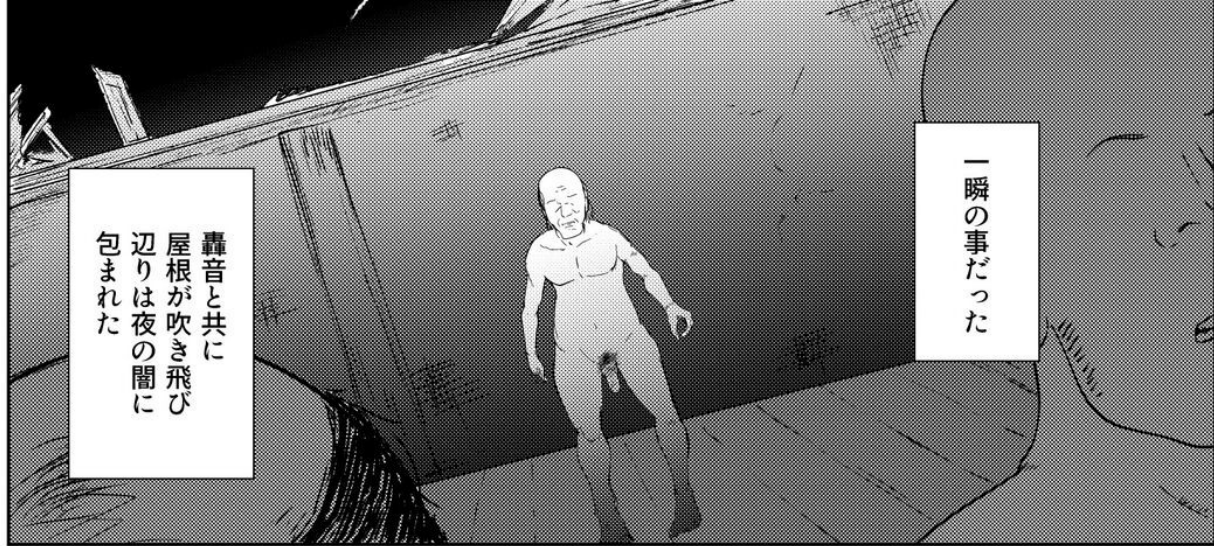


僕が...みんなを...
守る...から...



僕が...

ぼ...



一瞬の事だった

轟音と共に
屋根が吹き飛び
辺りは夜の闇に
包まれた



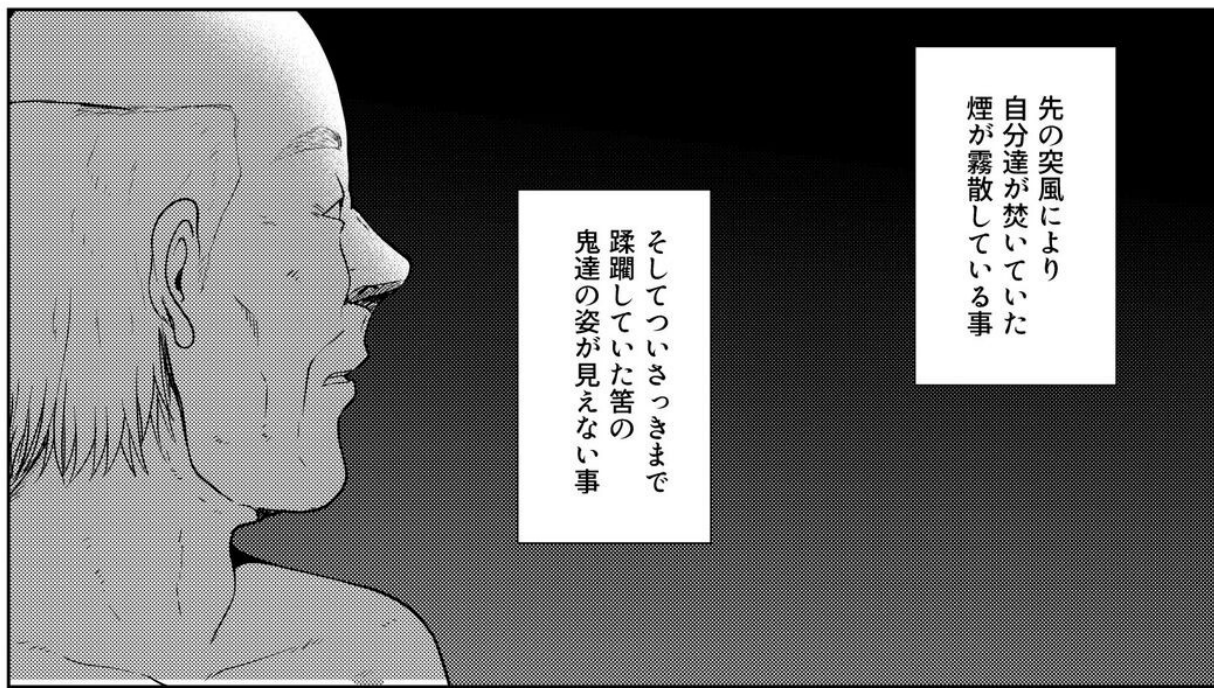
思考は混乱し
状況が掴めない

しかし頭で理解
する前に男の体は
反応を示していた



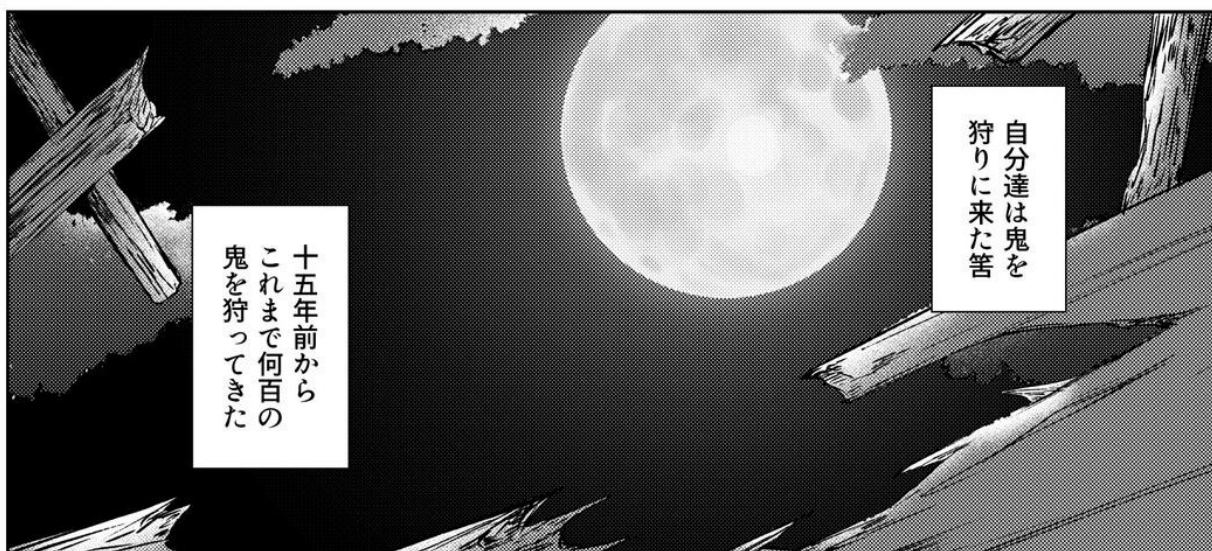
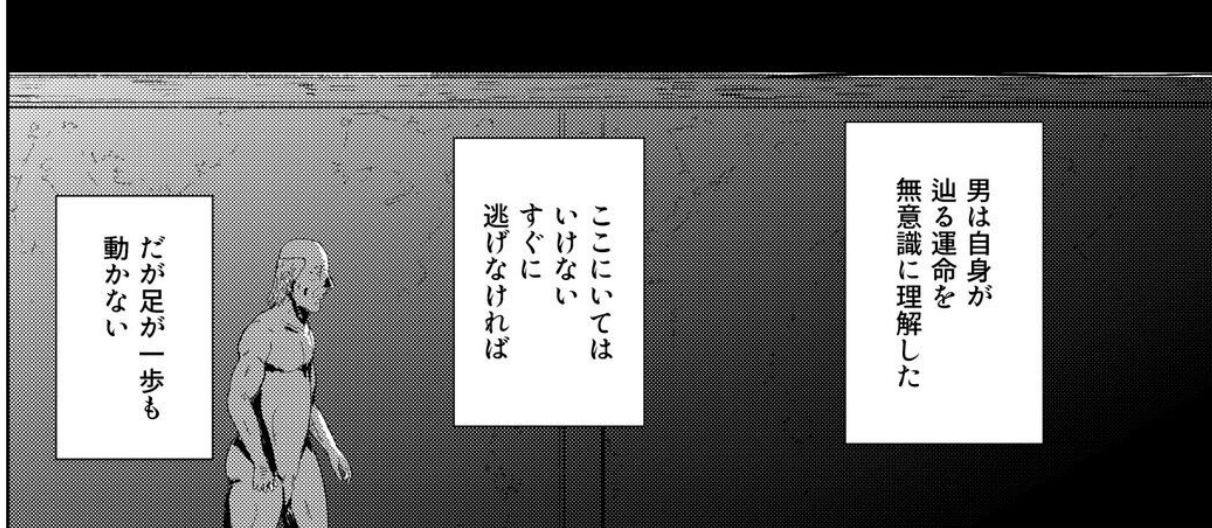
呼吸は荒く
汗が噴き出し
心臓の鼓動が
速くなっている

数秒後
男はようやく
理解した



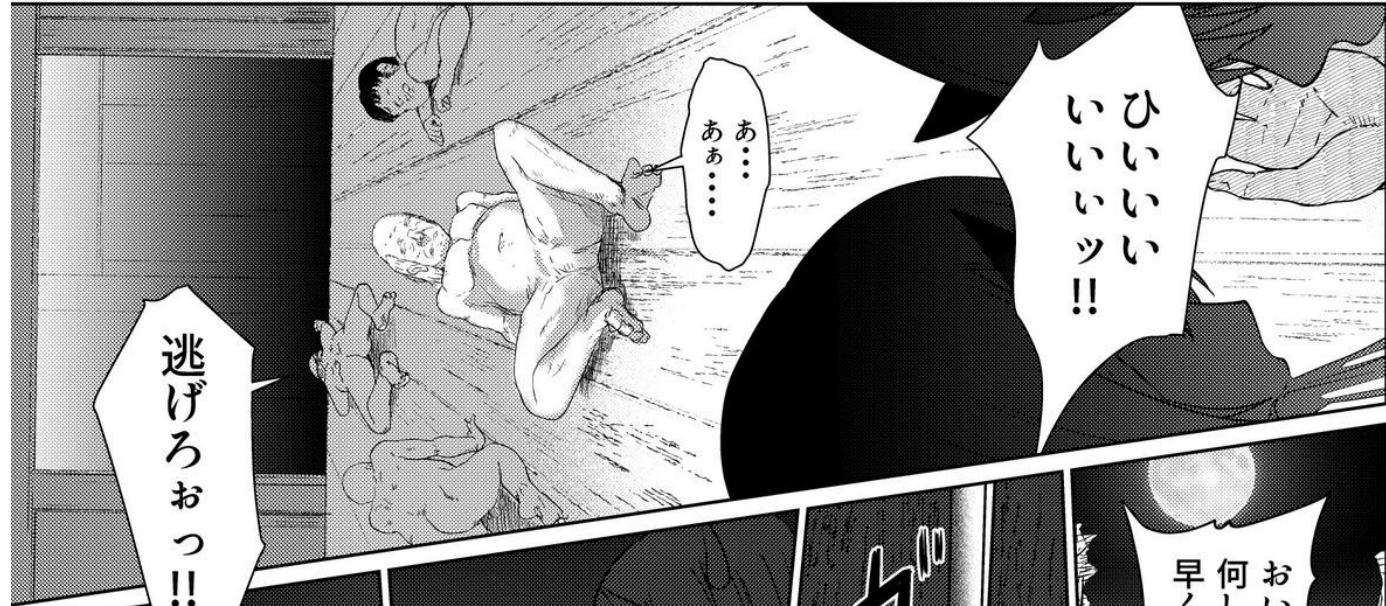
先の突風により
自分達が焚いていた
煙が霧散している事

そしてついさっきまで
蹂躪していた筈の
鬼達の姿が見えない事





あつ・・・ああッ・・・
うわあああああああ
あああああああああ
あああああああああ
あああああああああ!!!



ひいひい
いいいいッ!!

あ...
ああ...

逃げろおっ!!



おい!!
何してんだよ
早く開けろよ

わかってんだよ
でも何か
突っかってて

クソッ
ダメだ!!

開かッねえ!



許して...

くだ...しゃ...

あ...
うあ...っ

ッホッ

ゆ...

あ...
あ...
あ...



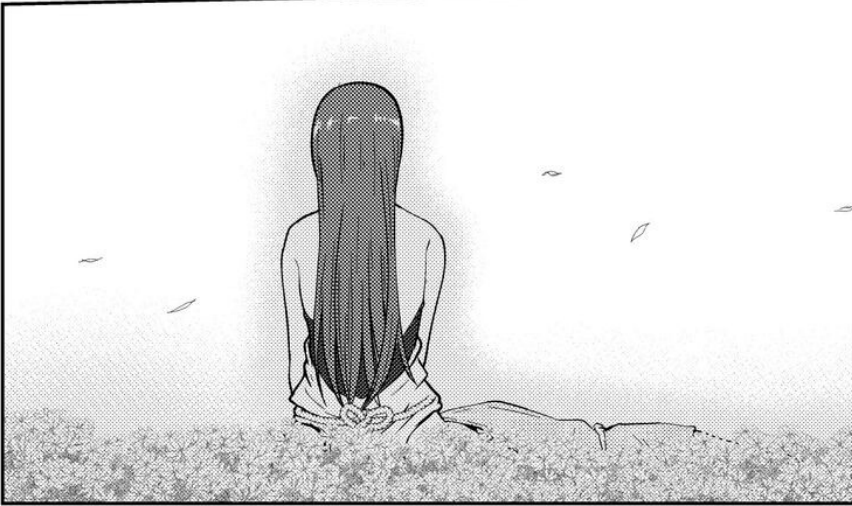
かつて
この国には
妖や化生の類が
多く存在していたと
言われている



中でも鬼に
関する伝承は数多く
残されており
その多くは鬼が人間を
襲うといったものである



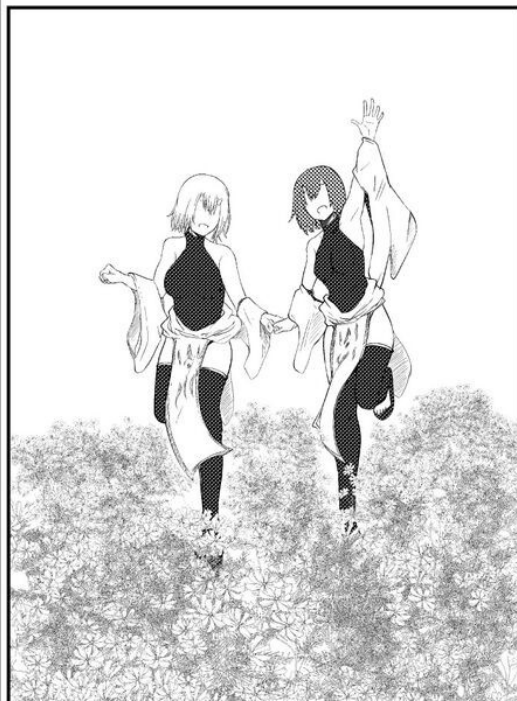
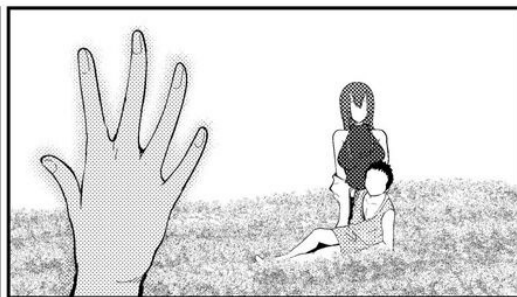
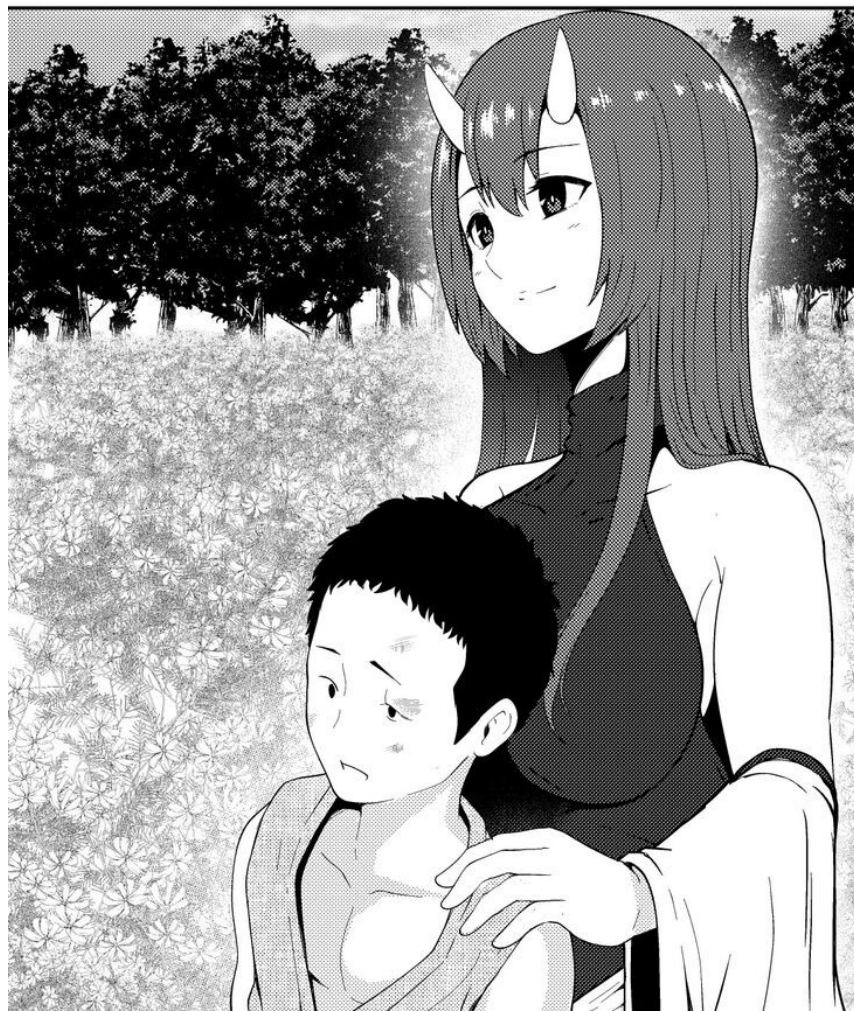
その為、鬼は
恐怖の象徴であり
畏怖・差別の
対象として扱われた

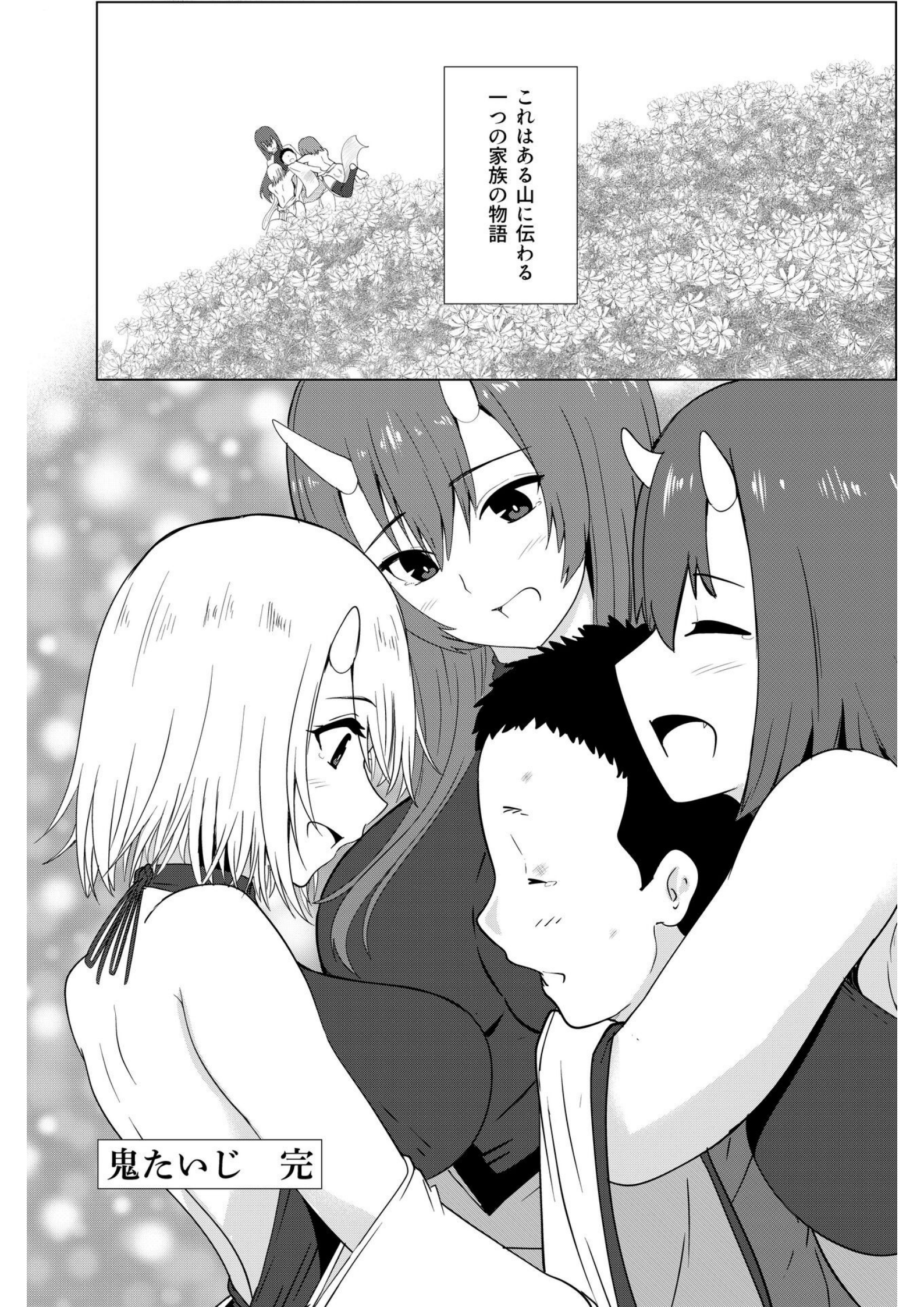


しかし地域によっては
心の優しい鬼や
人間に福をもたらす
有難い存在として
崇められたという
逸話も存在している



時代の流れと共に
妖は姿を消し
それらの存在は
やがて伝承の中でのみ
語られるようになった





これはある山に伝わる
一つの家族の物語

鬼たいじ 完